

令和5年度大原中学校のICT教育の推進（主題研修）について

研究主題

「主体的に学ぶ力を育む学習活動の創造」

～大原スタディ・ログを活用した振り返り活動を通して～

今年度大原中学校では、生徒が自身の学びの過程や変容を自覚できるように大原スタディ・ログを活用した「振り返り」を重点に置き、授業改善を進めていました。主体的に学ぶ力を育んだ生徒像を共通理解し、その生徒像を実現するためのツールとして大原スタディ・ログを活用していました。

大原スタディ・ログとは、独自で開発した Excel ファイルで、教科をクリックすると、教科のシートに移動し、毎時間の振り返りを①単元名・日付 ②学習のキーワード ③4段階での達成度 ④その理由 ⑤役に立ったICTツール の5つの項目で記録することができます。【図1】

③達成度と、④その理由については、【図2】のように振り返りの視点や振り返りのレベルを明確にすることで、感想や学習内容の記述に留まらないように工夫されていました。

また、目指す生徒像を意識した授業づくりに全職員で取り組むため、学習指導案には、「主眼」とは別に、「目指す大原スタディ・ログの記述」を明記するなどの工夫もありました。小郡市のICT教育推進委員会が目指す「ICT教育と学力向上の一体的充実」の具現化された姿を見ることができました。

大原中学校のICTの日常化に向けた取組

★朝活動でのICTについての一斉学習★

- ・ タブレットの使い方についての確認
- ・ 肖像権、著作権、ネット利用時の留意点
- ・ 「大原スタディ・ログ」配布・使い方説明
- ・ Teams のクラスチームへの参加・チャンネルの見方説明
- ・ L-GATE の開き方・タイピング練習紹介
- ・ L-GATE によるテスト問題配信・解答（情報モラル）

★教育活動全体での活用★

- ・ 各教科での活用
- ・ 生徒会活動での活用
- ・ 部活動での活用
- ・ 職員会議、校内研修での活用
- ・ 週末課題等での活用

など

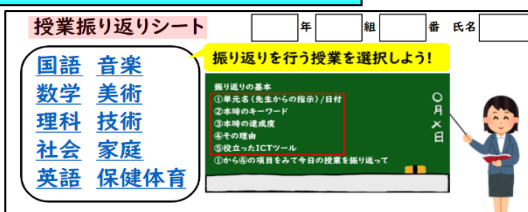


図1 大原スタディ・ログのスタート画面

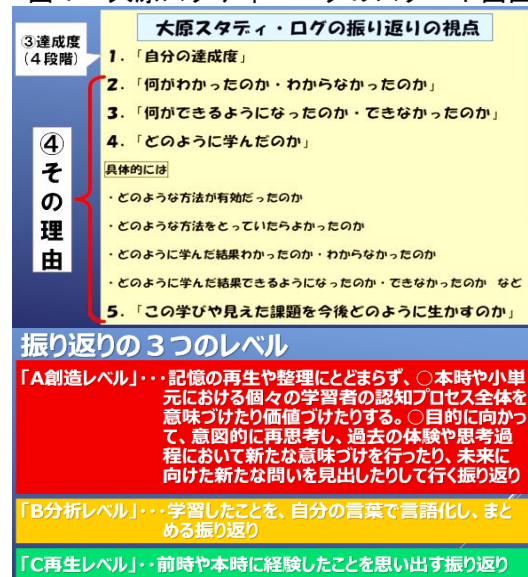


図2 振り返りの視点と3つのレベル

県情報活用能力向上事業協力校 大原中学校の公開授業を参観して

大原中学校は、令和3年度から「市ICT教育推進校」として、また令和4年度からは上記協力校としての取組を教職員が一つになり着実に積み重ねて頂いています。

昨年6月の公開授業の際にも、大原中生徒の「学びに向かう意欲」「人とかかわり合う力」の育ちを感じましたが、一年後、さらにそうした『主体的・協働的な態度』いわゆる『非認知的能力』が磨かれているという成果を子ども達の姿から実感することができました。

研究主任の福田先生が協議会の中で、「子どもに影響を最も与えるのは教師の姿です。大原中では、子どもの前に立つ先生方、若い先生もベテランの先生もみんなが、学校全体でICT活用をやっていこうという気持ちで取り組んでいます。」と述べていました。

参会者は、こうした学校全体の一体感ある取組の進捗の様子に多くのことを学んで帰ることができました。大原中学校の先生方、そして参加頂いた先生方に心から感謝申し上げます。

教育長 秋永

2年生(理科)「酸化について探ろう」授業者 高山 晃 先生

主眼

- マグネシウムが二酸化炭素(ドライアイス)中で酸化反応を起こすしくみを、モデル図と化学反応式で表現することができる。
- 酸化反応について振り返り、酸素原子に着目して説明することができる。

【つかむ】マグネシウムがドライアイス(CO₂)中でも燃焼する映像や前時の振り返りを見て、めあてを設定する。

【さぐる】燃焼後の酸化マグネシウムと炭素の性質を、LED電球を用いて確かめる。

【深める】化学変化を原子レベルで考え、理解するために、ロイロノート上で原子モデルを操作して、交流する。

【見つめ直す】仮説時のモデル図と考察時のモデル図を比較して、大原スタディ・ログに振り返りを入力する。



前時に行ったマグネシウムがドライアイス中で燃焼する映像を確かめたり、実験の様子を動画撮影し、記録したりしていた。また、原子モデルをタブレット上で動かすことで、化学変化の理解が深まり、大原スタディ・ログには、「残った物質に電気が流れるかどうかを調べることで、何の物質なのかを考えることができた。そこからモデルや、化学反応式を書くことでどのような化学反応が起きたか分かった。」と粒子の視点で振り返りを書いた生徒もいた。

2年生(美術科)「燕子花図屏風が国宝である理由を探ろう」授業者 福田 圭佑 先生

主眼

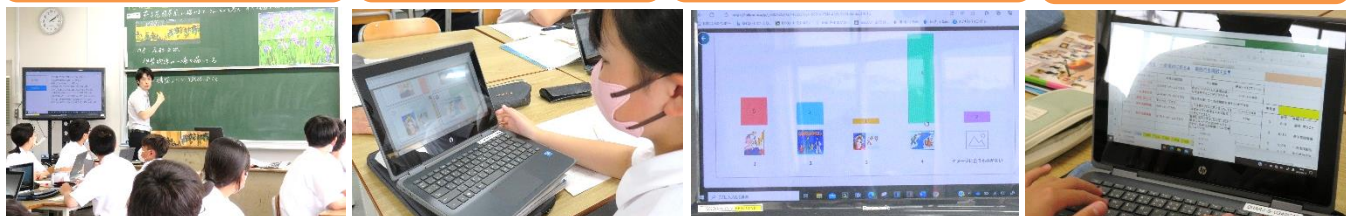
- 「^{かきつばた}燕子花図屏風」に込められた尾形光琳の表現の意図や創造的な工夫について考えることを通して、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができるようにする。

【つかむ】「燕子花図屏風」の色・形の工夫や前時の振り返りを確認して、めあてを設定する。

【さぐる】伊勢物語に登場する主人公、川、友人などが、なぜ描かれていないか考える。

【深める】画風の違う七夕物語のイメージをロイロノートのアンケートで確認し、人によりイメージが違うことに気づく。

【見つめ直す】振り返りの視点を確認して、大原スタディ・ログに自己の学び(変容)を振り返る。



導入でテキストマイニングや文書要約を用いて燕子花図屏風についての印象を共通理解させたり、初見の感想を大原スタディ・ログで確認させたりすることで、自己の変容に気づかせた。振り返りでは、「色、形、構図に着目して工夫している点を探ることができた。班で交流したり、友達の意見を聞いたりして国宝になっている理由を知ることができた。これからも色、形、構図に着目して作品を見ていきたい。」と書いた生徒の姿があった。

ICT教育推進委員会に参加された先生方の感想

【公開授業や大原中スタディ・ログで参考になったこと】

- ・授業の初めから、生徒たちが当たり前のようにタブレットを開き、自分で必要な情報を記録したり、過去の情報を見ていたり、当校でも日頃からの活用を広げていきたいと思いました。
- ・大原スタディ・ログを初めて見せていただきましたが、とても分かりやすく、子どもたちが自分の前時の振り返りを見ながら本時の振り返りをしたり、授業のめあてにつなげていたりして、とても良いなと思いました。小学校でもぜひ取り入れたいです。
- ・大原スタディ・ログは、Excelで一覧で見ることができ、教科をまたいで振り返ることができるので、さらに学びが深まると感じました。小学校ではロイロノート中心に振り返りをしているので、新たな視点の学びになりました。
- ・大原スタディ・ログは、子どもと教師と両方向から学びの変容を見取ることができるのは非常に有効だと感じました。本校でも次年度に向けて協議していきたいです。